

四国地域の国有林内およびその周辺地域における翼種目生息確認調査

四国自然史科学研究センター センター長 谷地森 秀二
四国森林管理局技術普及課 課長補佐 西本 義夫

1 はじめに

四国においてコウモリ目は3科15種の生息が確認され、そのすべてが飛翔昆虫を食物として利用しています。このうち、多くの種が準絶滅危惧や情報不足としてランクされています。また、それぞれの種の生息状況は十分に把握されていないことに加え、特に日中の休息場および繁殖場として樹洞を利用する種に関する情報はきわめて少ないのが現状です。樹洞性コウモリが生息するためには、飛翔昆虫の種や数が豊富な環境や樹洞ができる大径木が必要です。多くのコウモリが生息する地域は、上記の要件を有する生物多様性が高い地域であると言え、保護林や緑の回廊等の候補地として検討できると思います。

四国自然史科学研究センターは2012年度より四国森林管理局と連携して、四国内のコウモリ目の生息状況を把握する調査を行っています。今回は、事業の一環として樹洞性の種を主な対象とした捕獲調査を行なったので結果を報告します。

2 調査内容

調査は2012年5月より2013年10月にかけて実施しました。種の確認方法は、カスミ網およびハープトラップを用いた捕獲により行いました。調査地は、愛媛県久万高原町面河溪谷、金山谷、高知県土佐清水市今ノ山、足摺岬、いの町シラサ峠、津野町天狗高原、四万十町奥打井川、香美市物部別府、徳島県三好市見ノ越および西島の9地域です(右図)。

調査地の選定には、1) 広葉樹林帯の範囲内もしくは隣接地である事および2) 樹洞が形成されるような大径木がある事の2点に留意しました。

カスミ網は、コウモリの通り道と予想される林道において、通り道を遮る



図 調査地箇所一覧

ように地上高0m~5.4mに設置しました。カスミ網の設置時間は日没前後より23時30分までとし、設置後は、調査員がカスミ網の近辺に待機し、捕獲状況の監視を行うと共にバット・ディテクターを用いて周辺に飛来するコウモリの状況も記録しました。バット・ディテクターにコウモリが発する超音波が感知された場合には、感知した時間、気温および感知した周波数帯を記録しました。

ハープトラップは、カスミ網と同様にコウモリの飛翔ルートを遮るように設置しました。設置時間は、日没前後より翌朝までとし、見回りを21時前後、夜明け前後の二回実施しました。コウモリが捕獲もしくは確認できた場合は、捕獲時間、気温を記録し速やかに確保しました。捕獲した個体は、種の判別、性の判別、成長段階の確認、前腕長の計測、体重の計測および外部寄生虫の採取を行いました。

なお、捕獲に際しては環境省よりカスミ網使用許可および調査実施各県より学術捕獲許可を受け実施しました。

3 調査結果

調査の結果、キクガシラコウモリ科キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ヒナコウモリ科テングコウモリ、コテングコウモリ、ユビナガコウモリ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ウサギコウモリ、モリアブラコウモリの2科10種を捕獲しました。

このうちクロホオヒゲコウモリ、ウサギコウモリ、モリアブラコウモリは高知県初記録でした。また、四国におけるモリアブラコウモリの確認は44年ぶり、クロホオヒゲコウモリの確認は25年ぶりでした。さらに、高知県天狗高原では2科9種を確認し、多くの種のコウモリが生息している地域であることを確認しました。

4 考察

四国の国有林は奥地脊梁山地や里山まで所在し、多様な動植物が生息・生育しております。このため、引き続き希少な野生生物が生育・生息する森林については、地域の状況、保護林や緑の回廊のモニタリング調査等を通じて得られた知見などを踏まえ保護林等の区域等の見直しを推進していきたいと考えています。